

## 日本図学会とそして今

—人生は居場所探し— 佐藤仁一朗

要旨：本講演会の趣旨は、それまで6学会の会員であった私が、次第に軸足を図学会に  
していったことを理解して頂くこと、図学は勿論図学以外の学問を研究されておられる  
先生方との交流を通して、広範な物の見方が出来るようになり、このことが退職後、こ  
れまでとは全く別の居場所を自然に見出すことができたことです。無論、私とは別の考  
え方があり、それも価値あることであることは承知しております。これらのことから、  
本講演は必ずしも学問上の「図学」とは言えませんが、一人でも私の考え方を理解して  
いただければ本望です。

キーワード：図学、コンピュータ作図、国際会議、趣味、健康、町内会活動

## 1. はじめに

私は1968年4月、東北工業大学電子工学科に赴任し同学科の「製図」を担当しまし  
た。当時「製図」並びに「図学」は人間の手による所謂 **drawing**、**drafting** でありまし  
た。各大学の図学担当者は将来の図学のあり方を模索していました。まもなく東大の製  
図室の片隅に一部関係者が集まり相談し始めました。所謂「図学研究会の発足」<sup>(1)</sup> であ  
ります。数年後 **Vancouver** で第1回国学国際会議が開催され、それを契機にして、多  
くの図学関係者はモンジュによる「画法幾何学」だけではない、コンピュータ援用によ  
る図学のあり方を模索し始めました。そして「図学研究会」は「日本図学会」<sup>(1)</sup> になり  
図学会は活動開始しました。

## 2. 日本図学会

## 1) 日本図学会との関わり

1978年 **International Conference on Descriptive Geometry** が **Vancouver** で開催  
され、南日朗先生・小高直樹（とお父上）先生、佐藤 仁一朗の図学関係者が日本から  
出席しました。帰路途中南日先生と私は **Wisconsin-Madison** 大学などを見学しました。

第1回国際図学会への出席と関連大学の見学の経験を通し、私は、今後の「図学の方  
向性」に大きな指針を与えられました。これらの経験を生かすべく、研究室学生対象の  
コンピュータ作図を開始しました。作図方法と作図結果を防衛大学の池内正幸先生は資  
料として提出され、防衛大学は東大より1年早く図学専用 **CAI** 教室が出来ました。そし  
て精密工学会で得た知見をもとに、東大図書館より得た資料から **Sutherland** の「コン  
ピュータ作図の10の未解決の問題」を見出し、**An Algorithm for Hidden Line  
Elimination of Oblique Projection** <sup>(2)</sup> を、1982年発表しました。作図演習も一応の結  
果がえられたので、**MACAU** の会議で1985年発表 <sup>(3)</sup> しました。

## 2) 日本図学会会員の助言

東北大学精密工学科手嶋助教授の助言と推薦により日本精機工学会と設計製図工学  
会に入会しましたが、精密工学会講演会で **Sutherland** を知りました。設計製図学会で  
カクレ線処理に関する研究 <sup>(4)</sup> の一端を発表できました。程なく堤恵美子先生から図学  
会で活動するよう助言頂きました。この助言が今日に至った大きな要因であり、日本図

学会が私の居場所になりました。

### 3) 図学会員の協力

日本図学会全国大会が1988年と2000年に東北で開催され、多くの会員に協力を頂きました。2000年大会はいわき明星大学で開催され、五十嵐三郎先生が大会委員長を勤められました。他の全国大会には見られない郷土色豊かな大会となり、好評を頂きました。明星大学の会員に感謝いたします。この大会を契機にして桜井俊明先生が図学会に入会されました。入会された翌年、桜井先生を講師にお迎えし、東北工業大学で、メーカーの研究職が学生に期待していることをテーマに講演会を開催しました。300人教室は満員、廊下に溢れるほど好評で、内容充実した講演会となりました。後日学内の多くの先生から図学会への理解と講演会開催への感謝の言葉を頂きました。

所属学科全3年生を対象に図学に拘わる研究内容の紹介をすることになり、図学会会員に協力依頼をしました。独自に選んだ6テーマを、先生（例えば荒木勉先生）方の資料にもとずき学生に紹介しました。90分の授業終了後も質問に窮するほど、学生は興味を持った様子でした。学会各位の協力にお礼申し上げます。

五十嵐三郎元支部長は東北支部創立40周年記念として、日本図学会東北支部講演会資料集（286ページ、1967-2006）を、先生一人のご尽力で発行致しました。

国際会議が1994年日本で開催されました。東北地方の図学担当者への情宣活動と企業への寄付依頼を致しました。それなりの結果が得られたものと考えております。

桜井俊明支部長のご推薦を頂き、2009年度日本図学会新名誉会員<sup>(5)</sup>になりました。感謝致しております。

私の退職後秋田宏先生が、仙台で開催される支部講演会の企画と運営を引き受けて下さいました。

### 4) 国際会議期間中の交流

国際会議期間中の合間に、鹿島亨先生と美術館で、その絵画誕生にまつわるお話、その絵画の価値と鑑賞の仕方と面白さを、専門的な見地からご教授頂きました。贅沢な経験を致しました。また、古城庭園を散策しながら研究生活についての御教授頂きました。

オーストラリアで南半球での星の観察を、図学とは違った切り口で説明を頂き、人生観の示唆を頂きました。

国際会議でよくご一緒した先生から、先生が退職されるまで国際会議全容についてのご報告を頂きました。

### 5) 井野智先生

北海道大学大学院工学研究科後期課程で、井野智先生の指導により「遠近法を導入した立体図のコンピュータ処理」について、研究を致しました。関係された研究室の皆様にお礼申し上げます。

## 3. そして今

2004年3月退職しました。私は新しい居場所を無理なく自然と見つけました。

### 1) 一人で楽しむ趣味

退職時にこれまで購入した書籍の保管場所を考え、今後読むことがないと考えられる書籍を破棄した。学生には自由に持参してもらった。再読すると考えられる書籍はおよ

そ 5.000 冊あり、書籍庫を購入し自宅に整理した。これらの書籍を時間の許す限り再読し、気に入った文章を書き取りしている。何かを主張する議論めいたものでなく私の考えに同じ・合意・納得できる文章を抜粋している。再読した書籍は処分している。

一日 12.000 歩のウォーキングを毎日している。外が歩けない日には家の中で自転車をこぐ。

朝夕のストレッチは 30 歳前から続けている。お陰で柔らかな体を保持している。

## 2) 団体に楽しむ趣味

30 代から偶然はじめたテニスは幾度かの中絶はあったが、コーチとテニスパルに恵まれ週 2 回のペースでプレー。1981 年 9 月 20 日東北工業大学理事長杯のミクストダブルスで優勝カップを手にした。

退職した年の秋に会話の際の声が掠れることがあり<sup>(6)・(7)</sup>、ボイストレーニングを 2 年うけた。この効果があり声域が広がった。童謡・唱歌のサークルに入会。このころ個人レッスンを受けた。その発表会では、シューベルト作曲「美しき水車小屋の娘」の「さすらい」、「知りたがる男」、「僕のものだ」を独唱した。今はコーラスグループに入り、毎週歌っている。そして年 2 回以上ホールでの発表会を楽しんでいる。10 代後半の変声期を契機に歌うこともなく、無論カラオケの経験もなかった。退職後の声の掠れは偶然であり、この声の掠れがなかったら、人前で歌うことはなかったものと思います。

## 3) 夫婦で楽しむ趣味

退職後、毎年 1 月に公演される仙台オペラ協会主催の **New Year Concert** をかわきりに、毎年 20 回以上のコンサートに妻と行くようになった。例えば今年はおペラ魔笛、河野克展独唱会（冬の旅）、若林頭ピアノ演奏会、鮫島有美子演奏会、ソフィア・ゾリスデン演奏会、川久保賜紀の四季、仙フィルと松山冴花などが思い出される。

美術館・博物館などもこれまでよりも多く行くようになった。今年、水戸偕楽園、三春滝桜・紅枝垂れ地蔵桜、レオナードフジタ展、古代カルタゴとローマ展、トリノ・エジプト展、広重美術館、若松寺、瑞巖寺本堂・円通院、大沼白鳥観察など。

## 4) 町内会活動

地域ボランティアとして会員戸数およそ 360 戸の町内会副会長をしている。町内活動とは無縁と考えていたことから、引き受けた私本人が驚いている次第です。当面の課題は、宮城県周辺の地震発生が予想されることもあり、災害時における要援護者の支援体制の確立です。無論民生委員との協力が欠かせません。

次の課題は認知症の人と介護家族の生活の質の向上です。地域で支援する視点が重要になります。2030 年日本人は 65 歳以上の高齢者が 3 人に一人になりまた、75 歳以上の後期高齢者が 4 人に一人になると予想され、超高齢社会になると考えられています。

## 5) 食事の管理と健康チェック

食事の管理は妻に全権委任である。40 歳代から現在まで人間ドックを毎年受診している。当初、大学の保健師さんから薦められた。現在まで心配なところなく有難いことに健康である。

## 6) 今後

時間を工面し英会話と数学の再勉強をする予定です。

#### 謝辞

私は 2004 年 3 月東北工業大学を退職しました。退職を契機にそれまで 6 学会に所属しておりましたが、図学会以外すべて退会しました。同時に研究生活からも遠ざかってしまいました。しかし、年 2 回の日本図学会東北支部講演会は、1 度欠席しましたがそれ以外全て出席しました。と記憶しております。すでにその時には現在同様、いわき明星大学が支部運営を担っておりました。その庶務全般を高三徳先生のご尽力（支部ホームページ作成、講演会企画、支部会計など）によるものであり、お礼申し上げます。

この講演をするにあたり、途絶えていた池内正幸先生と交流が再会しました。嬉しいことです。これからも出逢いを大切にします。全ての日本図学会会員の皆様にお礼申し上げます。

#### 参考文献

- (1) 加藤道夫、CG/CAD 時代の図学、図学研究 Vol. 41. 2007. 5.
- (2) Jinichiro Sato, An Algorithm for Hidden Line Elimination of Oblique Projection, Proceedings of the 1<sup>st</sup> International Modal Analysis Conference; pp.118-122, 1982.
- (3) Jinichiro Sato, Education and Training in Descriptive Geometry in Seminal Using Computer, International Conference on Education, Practice and Promotion of Computational Methods in Engineering Using Small Computer, VOLUME 1A, pp73-85, 1985.
- (4) 佐藤仁一郎、斜投象におけるカクレ線の一表示法、昭和 55 年度日本設計製図学会、工学院大学、1980. 5.
- (5) 図学研究 Vol.43 No.2 June 2009, pp58.
- (6) 佐藤仁一郎、歌う楽しさを退職後に学ぶ、河北新報、2006. 7.22.
- (7) 佐藤仁一郎、退職後の挑戦 歌う喜び満喫、河北新報、2007. 1.20.